

# JAL解雇 「空の安全」を守る解決を 被解雇者労組ら宣伝

日本航空被解雇者労働組合（JHU）は10日に国土交通省前、翌11日は羽田空港ターミナルビル前で争議の解決を求めるアピール行動を展開しました。11日は支援する

国民共闘会議も参加し、120人余りの行動にな



120人を超える人が解決を訴えスタンディングする様子。足を止める人も=11日、大田区

りました。

JAL123便御巣鷹山墜落事故から37年前にして、JHUの山口宏弥委員長は「御巣鷹山墜落事故まで、ニューヨーク、モスクワ、アンカレッジ、クアラルンプール、羽田沖と当時の日航（JAL）は重大事故を起こしてきた。犠牲になった方々には家族もあり、その方々の人生までも狂わ

せてしまった」と切り出し、「こころした悲劇を繰り返さないために、安全に対して強くモノを言う労働者、労働組合は必要だ。その組合員を排除した整理解雇は安全を脅かすものだ」と批判。

はいまだ実現していない」として全面解決を求めました。

その上で、「不当労働行為で解雇された仲間165人は、誰ひとりも乗務員として職場に戻れていない。私たちの要求

JAL解雇争議は日本航空乗員組合、日本航空キャビンクルーユニオンは終結したと表明。両組合に属さない被解雇者のたたかいは継続しており、全国労働組合総連合（全労連）は引き続き支援すると表明しています。